

因としては、各科外来の診療体制が曜日毎に異なること、土・日曜日の連休中の発病と休日前の不安感が考えられます。患者数の増加に対してはスタッフをそろえて対応していますが、待ち時間の延長と忙しさによる患者サービスの低下をきたしがちです。看護補の導入、再診予約制の試行など各部局、各科医師の協力により外来における看護の見直しが必要と考えています。現在はインフォームドコンセントの必要性が問われている時代であり、患者さんが待つという不満を和らげ、納得していただけるような対応が必須であります。今

後とも職員各位のご協力を得て、スタッフ全員で努力して行きたいと思います。

平成6年度からは教育委員会を設けて、いろいろな医療機器・内視鏡検査・透析処置・新しい科の勉強会などを定期的に行っており、パンフレットを充実させ患者サービスを図りたい。研究発表も1年に1つを目指して取り組んでいます。接遇研修は自治体の研修を受けている看護婦が多く、再度皆で確認しあい、より充実したものになりたいと思っています。

内科外来検査系の活動状況

内科外来検査係

門馬邦子	槇田敏枝	内堀奈津子	石崎久美子
河上智子	佐々木豊子	早瀬恵子	

新病院に移ってから私たちの業務内容が、少し変わりました。

内視鏡検査・血管撮影検査等を担当することになりました。旧病院の時は、内科外来のスタッフとして外来業務、内視鏡検査等を回り番で行っていました。新病院に移ってからは5名の看護婦で、検査を主に担当することになりました。内視鏡検査に関しては以前から行なっていたが、血管撮影検査に関しては内科外来の業務の中で数件関わった程度でしたので、ほとんど何もわからない状況の中からはじまりました。

旧病院の養成所の教室で脳神経外科の中井先生が勉強会を何回かひらいてくれましたがなかなか身近なものに感じられず、戸惑い気味で講義を聞いていました。そして新病院に移りました。

血管撮影室がまだ使えない時に血管撮影対象の患者が搬送され、透視室の中で脳血管撮影検査が行なわれました。中井先生、徳光先生に御指導をうけながらなんとか検査をおわらすことができました。

その後血管撮影室がスタートしましたが、第一内科・脳神経外科・第二内科・外科・泌尿器科といろいろな科で血管撮影検査が行なわれています。別表にも記されていますが、月平均30例近くの検査が行なわれて

いますが、それぞれの科の先生方に御指導・御協力を受けなんとか今日までできています。

又、私たちのもう一つの業務である内視鏡検査も検査内容が徐々に拡大されてきています。旧病院でもGF・CF・ERCP・BF等の検査を主に行なっていましたが、現在では以前行なっていた検査の件数も増えてきています。他にEUS・EIS・EMR等の検査内容も増えてきています。寺沢医長はじめ第二内科の先生方の御指導を受けながら、業務を行なっています。

以前は、GF・腹部エコーの外来患者の検査の時には朝はやくきた順番に検査を行なっていましたが、いくらでも待時間を短縮しようと先生方と相談して予約制にしました。他に内視鏡室全体の雰囲気作りとしてBGMをながして、いくらでも緊張感を解消できればと思っています。

以上のような工夫等も考えて患者の苦痛・緊張感をいくらでも緩和できるように、これからもスタッフ一同がんばって業務を行なっていきたいと思っています。

尚、平成4年4月より平成6年2月迄の検査件数をグラフにしましたので御参照いただければ幸いです。

最後に私たち看護局のスタッフにも、病院誌に発表する機会を与えて戴きありがとうございました。

